



DATE. 2009.8.01

◇◇ 様へ

××ちゃんの検査結果ご報告

×× ちゃんの検査結果について、ご報告させていただきます。

検査で認められた異常な点および問題点

1. 腎結石（左右）→腎不全初期
2. 嚢胞腎（左右）→腎不全初期
3. 肝嚢胞
4. 肝臓に結節

コメント

××ちゃんの検査結果ですが、腎不全が始まっています。原因の一つは嚢胞腎で腎臓の実質に多発性の嚢胞が形成される疾患です。原因ははっきりとわかっていませんが一説によると遺伝性といわれています。時間経過とともに、大部分の嚢胞は大きさと数を増し、しばしば隣接する正常な腎実質を圧迫するため、腎不全になります。腎臓の嚢胞を切除することや腎摘出は行えませんが、治療は嚢胞形成から続発する腎不全や感染を細小限に抑えるということとなります。もう一つの原因は腎結石で感染や食餌性により発生します。腎結石の中には臨床症状を起こさず進行しない非活動型もありますが、血尿、腎不全がありますので治療を要すると思います。主に腎不全の治療となります。肝機能によって治療薬が変わるおそれがありますので肝臓の精密検査を待ちます。

肝臓は3～5個の嚢胞が確認されます。肝機能の数値は正常ですが、エコー検査において肝臓の構造破壊が進んでおり、このまま進行すると肝不全を起こす可能性があります。胆管の近くでもありますので精密検査を行なうとともに、残りの肝細胞を温存するために強肝剤の内服や処方食をおすすめします。また、一カ所に結節が出来ており大きくならないかを定期的に画像診断にて見ていく必要があります。

腎臓、肝臓を含めて2～6カ月ごとに、嚢胞や結節の大きさと随伴する異常（例：腎不全、腎臓の感染、疼痛）について監視しなければならないでしょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・

京都中央動物病院

獣医師 中村 美穂

・・・・・・・・・・・・・・・・